

- ・表紙「第14回安曇野市総合芸術展」……p.1
- ・安曇野を知る1枚「黒沢の滝」……p.1
- ・公民館講座
（豊科・穂高・三郷・堀金・明科）…p.2,3

- ・グループ紹介「着物リメイク」……p.2
- ・地区公民館だより「穂高町区公民館」…p.4
- ・私は一生懸命
「藤本大輔さん、長持綾香さん」……p.4



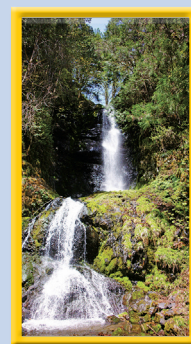
第14回 安曇野市総合芸術展 3月6日～14日開催

安曇野市総合芸術展が3月6日から14日まで、豊科交流学習センター「きぼう」で開催されました。各地域文化祭の出品作品から選ばれた絵画・水墨画・書道・写真・工芸・彫塑の6ジャンル138作品を展示しました。

期間中、市内外から420人あまりが会場を訪れ、各種作品に見入るとともに写真に収める人も数多く見受けられました。来場者アンケートに「皆さんすばらしい芸術品で、目の保養と心の休養をいただきました」「全て作者の方の思いが込められたすてきな作品だったと思います」「みんな素晴らしくて感動しました。私も何かやってみようと思いました」「来年も楽しみにしています」などの感想が寄せられました。

安曇野を知る1枚 黒沢の滝（三郷）

三郷の南小倉地区から西に上ったところにあるのが黒沢ダムです。ここから更に300mほど沢に沿って登ったところに「黒沢の滝」があります。歩くと野鳥のさえずりと沢の水の音しか響かない谷の中にそれは忽然と姿を現します。落差は本滝が24m、下の滝が6m。浸食によって滝は10mほど後退したため周りより奥まっており、その悠久の時の流れを感じさせてくれます。



地区公民館だより 穂高町区公民館（穂高）

穂高町区は、穂高地域の中央部、穂高駅を挟んで東西に位置しております。

穂高町区公民館では、区民の方々に行事に参加していただけるよう、分館クーポン事業を行っています。行事ごとに参加者に発行する穂高町区独自の「クーポン券」を集めれば、お買い物券がもらえるという事業です。区民の方々は年末の回収日に各自で集めたクーポンを提出します。それを公民館で集計した上で必要に応じて抽選を行い、当選した方にお買い物券を発送しています。お買い物券は、穂高町区内にある商店のご理解とご協力のもと、対象の商店で設定した期間内にお買い物をしていただけます。期間終了後は穂高町区公民館から対象の商店に対し、お買い物券の使用分のお支払いをしています。

令和6年度は、分館クーポン回収日にお楽しみ会を企画しました。地区在住の小中学生3姉妹による津軽三味線の演奏、射的ゲーム、新米での振る舞い餅の配布を行いました。当日はお子さんを含む参加者が多く、分館クーポン回収だけでなく賑やかな日となりました。

今後も、穂高町区独自の分館クーポン事業を継続し、幅広い年齢の方々が、行事に参加できるように工夫したいと思っています。

【穂高町区公民館長 中村 貢】



私は一生懸命 藤本大輔さん、長持綾香さん

～音楽とともに～

ドラムとピアノのデュオとして活動している「エスプレッソ」のお二人。



ドラムを操る藤本さん（三郷）は、高校時代に自己流でドラムを始め、大学では音楽サークルなどに所属していました。ピアノを奏でる長持さん（穂高）は小さいころからピアノを始め、音大卒業後は様々な場所でその腕前を披露してきました。

2023年2月、飲食店でBGMを弾く長持さんを藤本さんが誘う形で結成されました。

ジャンルはジャズやポップス、演歌など様々だが、「大人の音楽を目指している」と語り、ホテル等でのロビーコンサートをはじめ、みさとコンサートやライブハウスなど、声がかかれば精力的に出演しています。

「聞いていただいた人と記念撮影したり、動画撮影したものをDVDで送ってもらったり、その時に初めて出会った人の思い出に自分たちがいることをとてもうれしく感じる」「どちらかというと、人をたくさん集めてのコンサートより、その場に合った音を奏で、通る人が自然に足を止めてくれるようなものが好きです。自分たちだけの音楽を聞いてもらっているその瞬間に、その人たちと繋がるのが快感」とお話しいただきました。

「今が楽しくてしょうがない」「音楽を手段としたイベントを開催して地域貢献をしたい」とも話し、まだまだこの先が楽しみなお二人です。



編集後記

◆初めて子どもと地区の例大祭に参加し山車を引きました。長時間歩き続けて体力的に大変でしたが、一体感があり、地域の世代を超えた交流に伝統行事の素晴らしさを知ることができました。（A.S）

◆果樹園で仕事に励んでいますが、今年もこの地域で絶滅危惧種の「アカモズ」の調査があります。昨年アカモズかと撮影した巣はスズメと判明したこともあり、今年は発見できるか期待しています。（M・M）

みさと

日本シャクナゲの名所を訪ねる

時折吹く北風が冷たく感じた5月7日、三郷公民館は自然教室「日本シャクナゲ探訪ツアー」を開催しました。この日は16人の参加があり、バスで市内外の名所を訪ねました。

ルートは、浄心寺（三郷北小倉）～吉澤邸（三郷中萱）～満願寺（穂高牧）～大町ダム～葛温泉。

講師の吉澤国雄さん（日本植物生理学会会員）から、花卉の数や葉の違いによる種類の見分け方や、肥料の内容・タイミングの説明があり、参加者は熱心に写真やメモをとっていました。



公民館 講座



とよしな

リコーダー講座

豊科公民館は、4月10日に本講座の第1回目（全11回）を開催しました。今年で2年目を迎え、事前に27人もの申し込みがあり、今回25人が参加しました。

講師は豊科公民館の臼井知館長でした。講師が話し始めると、参加者は皆これからの時間に期待をしている様子で聞き入っていました。



まずはリコーダーの種類について紹介がありました。参加者が使うソプラノ・アルトに加え、普段なかなか見ないソプラニーノやクライネソプラニーノの実物をみる事ができました。続いて、吹き口近くの部分が大事であること、演奏前に温めておくこと、また息の吹き方や演奏技法などリコーダーの基礎を習いました。

実際の音出しでは、同じソプラノでも種類が違っていると指使いが違い、熱心に講師に質問をする参加者が多くみられました。

最後に音楽理論の話もあり、演奏にあたっての色々な知識を得ました。講師は「これからもリコーダーに触れてほしい。来月も楽しみにしています」と締めくくりました。



ほりがね

講座受講者

あづみの公園早春賦音楽祭に出演

公民館講座「童謡・唱歌・心の歌を歌いましょう」の受講者が、5月11日、あづみの公園早春賦音楽祭に出演しました。音楽祭の特別企画、「うたとおはなしでつづる昆虫の不思議とみりょく」のステージに、他の2団体と「昆虫のみりょく合唱団」の名前で、昆虫をテーマとした唱歌等を披露しました。また特別に、市の天然記念物で公園内に生息地がある「オオルリシジミ」を、「ちょうちょ」の替え歌に乗せて発表しました。

教育委員会の斉藤雄太さんからは「蛍やトンボが飛び交う姿が見られなくなれば、唱歌は廃れ、昆虫を知らない世代が生まれてしま



う」と警鐘を鳴らしていました。

参加した岡村崇子さん（堀金）は「大勢の前で歌うのは恥ずかしかったけれど楽しかった」と話していました。

公民館講座では「童謡・唱歌・叙情歌を季節や行事に併せて、歌詞を味わい楽しく歌いましょう」と呼びかけ、年6回、早春賦愛唱会代表の西山紀子さんを講師として指導を受けています。

ほたか

趣味の講座

「墨絵教室」

穂高公民館は4月24日に本講座（全11回の第2回）を開催しました。

講師は墨絵と水彩画の画家で「夢穂高」主宰の秋山美峰さん。

受講者は17人。本講座で筆を持って描くのは本日が初めてなので、基礎の徹底練習をしました。



①【準備】筆の糊を洗い落とす。墨汁は小指の先ほどの少量を小皿に出す。筆を使って別の小皿に墨汁と水を少量入れて濃さを調整する。

②【筆の使い方】筆は下方を握り少し寝かせて肘を上げずに描く。紙に穂先を軽く押しつけて濃淡を見る。

③【杉の木立】木立の基礎となる点を幾つも幾つも描いて筆の力の入れ方と表現の違いを知る。杉の木立のこんもり感を出し、幹と枝は直線で。

受講者は、ひたすら杉の木立や松を練習しました。講師からは「今が一番難しいんですよ。ひたすら描いてコツをつかみましょう」との指導がありました。受講者も少しずつ要領を覚えたようで、「墨のちょっとしたタッチの違いで様々な木立の様子を表現できて楽しい」の声がありました。



あかしな

あまだやま

天田山ウォーキング

明科公民館は4月15日に春のウォーキングイベントを開催しました。明科の里山といえば長峰山が有名だが、今回はまだ広く知られていない天田山を訪れ、地域の魅力を再発見することを目的としました。定員を上回る28人が参加し、天田山城跡までの長い急登を登り切った。「これはウォーキングじゃなくて登山だなあ」という声もチラホラ聞かれました。

途中の天田神社周辺には大きな桜が何本もありました。



「さとぶろ」などいくつかの団体によって整備が続けられており、翌週には満開の桜が見られそうでした。

天田はかつて集落があった場所だが、現在住民はいません。こうしたイベントで多くの人が歩き、足跡をつけていくことで、地域の宝を周知し守っていくことにつながるでしょう。

公民館では、今後もこうしたウォーキングを開催する予定です。



グループ紹介 着物リメイク（豊科）

本会は豊科公民館の講座室で開催されています。代表を務めるのは大谷直子さんです。笑顔と明るい声に溢れたメンバーの講師でもあります。公民館活動は令和5年4月から。豊科郷土博物館の作品展をきっかけに、「教えて欲しい」と集まった4人から始まり、現在26人が月2回の活動を楽しんでいます。

活動では必要な知識を習い、リメイク作業を行っています。また、作品をファッションショーで紹介・雑誌の掲載・公民館文化祭に展示するなど、幅広く活動しています。家に眠る着物が普段着として活かされ、タンスも片付き、自分が着たいオンリーワンの洋服を着られる嬉しさもあるのが魅力だということです。

着物は家にあるものや譲り受けたものを利用し、難しい工程は講師が助けてくれるので初心者でも気軽に参加できます。

連絡先：大谷 直子さん ☎ 090-9665-8128

